

特定非営利活動法人(NPO法人) いがた地域創造センター

ちいきそらぞら



第9号

2013.12.13

主な内容

10周年を迎え、また新たな一歩を 理事長 植木 昭一…… 1	身近な社会資本の見学会…………… 3
10周年を迎えられた今後の活動よせて 新潟県土木部長 田宮 強志…… 2	10周年記念祝賀会（講演会・祝賀会）特集 …… 4
万内川砂防公園 サマーフェスティバルに感謝状授与…………… 2	活動状況報告…………… 6
	河川情報モニター実施報告及び 都市公園情報モニター実施報告…………… 7

10周年を迎え、また新たな一歩を

理事長 植木 昭一



昨年同様の暑い夏がやっと終わり、ようやく過ごしやすくなったと思っておりましたら、11月中旬には早くも山間地から積雪の便り、そして師走の寒さに体が凍える季節となりました。

会員の皆様には、日頃から当法人の運営に対しまして、ご支援ご協力をいただき心から御礼申し上げます。さて、当センターはおかげさまで、平成15年10月の設立から10年を迎えることができました。

この間、大変ご苦勞された初代松井理事長、その後の藤原理事長、島原理事長はじめ当時の役員理事の方々に改めて敬意を表します。ありがとうございました。また設立直後には、会員の皆様から県内で発生した中越地震等の大災害時において、県からの応援要請を受けて現地に赴き、「昔取った杵柄」を十二分に発揮していただきました。

またその後も、「河川情報モニター」や「県立都市公園の情報モニター」、「都市緑化フェアでの植樹寄贈・植樹作業」の毎年の活動はもとより「災害時の被害調査」や「地域懇談会」等の活動を通じて、少なからず社会貢献出来たのではと自負しております。

ところで、先ほど申し上げました設立10周年を記念して6月に「祝賀会」を開催いたしました。あいにく県議会開会中と重なったため、現役幹部の皆様には出席できなかった方もいらっしゃいましたが、正会員、賛助会員の皆様多数出席のもとで盛大に開催することができました。当日は、来賓の皆様から次の10年に向け力強い励ましの言葉を戴き、新たな一歩を踏み出すべく頑張ってみようかと思いました。

また、10月12日の土曜日には、県からの要請により「身近な社会資本の見学会」を実施いたしました。将来の建設業を担う県立新潟工業高校土木科の生徒さんから、通船川山ノ下閘門・排水機場周辺のインフラ施設を船上にて見学してもらい、「地域を守るインフラの重要性やそれを支える建設関連産業の役割」を理解してもらうことができたと思っております。

このイベントには多数の理事・会員がスタッフとして参加し、まさに当センター手作りのイベントとなりました。参加した生徒さんに好評だったほか、先生の刺激(?)にもなったようで大変感謝されました。

今期は、ご紹介した「見学会」を県から急きょ受託したこともあり、当初予定していた「地域懇談会」を開催できませんでしたが、来期は是非開催したいと考えております。

最後になりますが、これからの10年に向け、県ご当局をはじめ会員及び賛助会員の皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。今期の報告といたします。



10周年を迎えられた今後の活動によせて

新潟県土木部長 田宮 強志

特定非営利活動法人にいがた地域創造センターの皆様におかれましては、日頃から本県の土木行政の推進に御支援、御協力を賜り感謝申し上げます。また、今年で設立から10周年を迎えられましたことに、心からお祝いを申し上げます。

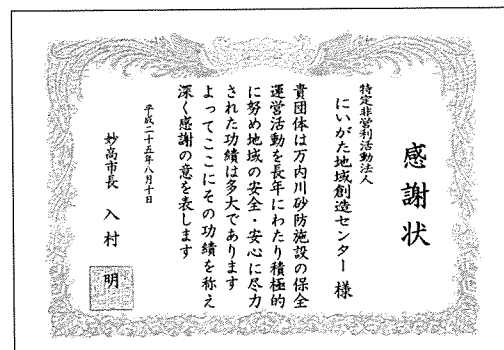
この10年間を振り返りますと、平成16年の新潟・福島豪雨や中越大震災に始まり、平成18年豪雪、平成19年の中越沖地震、そして平成23年7月の新潟・福島豪雨災害などの各種大災害対応に追われた10年間でありました。にいがた地域創造センターとは平成18年3月に「防災業務の応援に関する協定」を締結するとともに、中越沖地震発災直後における被災状況調査を始めとした災害時の対応等に御協力いただいておりますことに改めて感謝申し上げます。

さて、平成8年度以来、減少し続けてきた県土木部予算は、平成25年度に若干持ち直したものの、今後継続していくかは不透明な状況です。さらに、土木技術職員の減少や老朽化の進む公共土木施設の維持・修繕等、様々な課題が山積しており、土木部を取り巻く環境は非常に厳しいものがあります。しかしながら、幾多の大災害を乗り越えてきた我が土木部には、先輩から脈々と続く、困難な時ほど団結するという伝統の力があります。にいがた地域創造センターの皆様と連携しながらこの局面に立ち向かい、「災害に強く、自立した活力あるふるさとづくり」そして「地域を支える建設産業発展」のために邁進していきたいと考えています。

にいがた地域創造センターの皆様からは、今後とも本県土木部への御支援、御協力をお願い申し上げますとともに、更なる飛躍を心からお祈りいたします。

万内川砂防公園サマーフェスティバルに感謝状授与

平成25年8月10日（土）



万内砂防公園サマーフェスティバルは万内川石積砂防堰堤の登録有形文化財指定（平成15年）を契機に、万内川砂防堰堤群及び日影沢床固工群を中核とした「万内川砂防公園」を会場に毎年、8月に開催されております。

今年は文化財指定から10周年目の節目となり、フェスティバル開催も10回目の記念開催となりました。

この、「万内川砂防公園」は新潟県が整備し、県と妙高市の管理となっておりますが、その多くは地域や各種団体が担っています。

今年は、節目の年を迎えることから、これまで文化財並びに公園の維持管理やサマーフェスティバル活動を通して、地域の活性化に取り組んできた当センター等に対して、長年の労と今後の活躍への期待を込めて、入村妙高市長より感謝状が授与されました。

NPO法人にいがた地域創造センターと連携した 「地域を支える建設産業の底力発信事業」



「身近な社会資本の見学会」について

新潟地域整備部部长 高橋 猛

県土木部では、建設産業の魅力と重要性について県民の理解を深めるため、平成25年度当初予算の重点項目として、「地域を支える建設産業の底力発信事業」を立ち上げました。

新潟地域振興局地域整備部では、この事業により未来の建設産業を担う高校生を対象とした「身近な社会資本の見学会」を平成25年10月12日（土）に開催し、新潟工業高等学校土木科のみなさん計31名に参加していただきました。

今回の見学会は、通船川下流に位置する「山ノ下閘門排水機場」の重要性について理解を深めることを目的に開催したもので、「通船川の成り立ちと役割」、「模型による新潟の地盤沈下の状況」についての講義の後、実際に船に乗って閘門を通航し、信濃川と通船川の水位差を体感することで講義内容を再確認していただきました。合わせて万代橋の橋桁の補修状況や通船川県営貯木場の利用状況を船上から見学し、閘門以外の施設の重要性も確認していただきました。アンケート及びレポートの結果も大変好評であり、建設産業の魅力と重要性を十分伝えることができたのではと考えています。

最後になりますが、当見学会の企画・運営をしていただいた貴センターの皆様にお礼申し上げますとともに、今後のますますの御発展をお祈り申し上げます。

■見学会体験生徒（新潟工業高校生）の感想

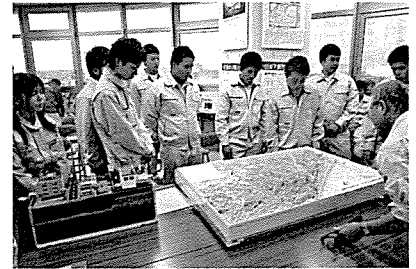
当日のアンケートでは時間がなかったため簡単な感想しかありませんでしたが、後日「施設見学会レポート」を頂くことができましたので、その中から一部を紹介します。

- ・「今回の施設見学会を通して、学校では経験できないことが沢山できました。山ノ下閘門排水機場ではとても分かりやすい説明と、模型を使い実際の沈下を教えてくださいました。新潟工業高校付近は特に沈下が激しく、排水機場の大切さがよく分かりました。」
- ・乗船体験では、「2メートルを超える水位差を直に体験したこと、普段は体験できない橋を下から見るのができ、貴重な体験ができました。」
- ・朱鷺メッセでは信濃川と通船川の位置関係とともに、「新潟市内の港湾や道路といった社会資本全般を見て、改めて土木の大切さが分かりました。」
- ・そして感想として、「あれだけの低い土地があるのに安全にらせるのも、見えない土木の技術が生かされていることに、土木を学ぶ者としてとてもほこりに思えた。」また、「今自分たちが学んでいる土木関係の仕事がないと生活できないと、改めて興味と関心を持ちました。」「この機会ですんだことを自分たちが将来、土木技術や色々な形として地域社会に貢献できるように生かしたいと思います。ありがとうございました。」とありました。

まだ多くの感想があるのですが、全部を紹介できないのが残念です。

■受託者（NPO法人にいがた地域創造センター）の感想

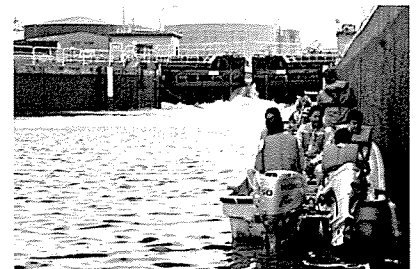
生徒の感想の最後に、「土木を学ぶ者としてのほこりに思えた」、「この機会ですんだことを、将来地域社会に貢献できるように生かしたい」、とあるように、今回この企画の最終目的が達成できたのではないかと考えます。



地盤沈下模型と標高模型



標高模型説明



閘門水位差体験



山の下橋桁下



萬代橋

10周年記念祝賀会(講演会・祝賀会)特集

- 1 日時 平成25年6月21日(金)
15時～19時30分
- 2 会場 ホテル日航新潟 4階「朱鷺」
- 3 概要

(第1部)
講演会 15時～16時30分
新潟お笑い集団「NAMARA」
講演 「笑い与健康:健康で長生きする秘訣」
講師 第2代新潟県元気大使 江口 歩
アトラクション
「建設現場におけるお笑い朝礼 実演」
講師 パンプキンダンス

(第2部)
祝賀会 17時～19時30分
開会セレモニー(挨拶、祝辞)
アトラクション
新潟芸妓による「柳都の踊り」
懇談会

●講演「笑い与健康:健康で長生きする秘訣」 ～健康で長寿を保つ秘訣を伝授～

第2代新潟県元気大使江口歩氏は、会場に集まった年代にピッタシな「健康で長寿の秘訣は笑うこと」をテーマに、お笑い集団らしい講演をしました。内容は、活力が減退すると希望や免疫力を失い、前向きな気持ちが失われ、病気や事故につながるということです。

また、県警の情報によると、朝気分が悪いと交通事故やトラブルに巻き込まれることが多くなり、医師の情報では、笑えない状態でも「作り笑い」をすることで、気分をリフレッシュさせる効能がみられるとの発表あり。つまり、朝から笑うことが事故を防ぎ、気分をリフレッシュさせ、仕事が円滑に進み、会社が明るい環境になるのだそうです。今日はこれから笑いましょう！

スイカの皮とアスパラガスの先(?)には天然のバイアグラ効能があるとの話に、皆さん真剣に聞き入り大いに会場は盛り上がりました。時節柄、スイカの皮を試された会員も多かったのではないのでしょうか。残念ながら、効果のほどは確認できていません。(笑笑)



講演会3人

●アトラクション 「建設現場におけるお笑い朝礼 実演」

元・保育士&元・介護士のユニット「パンプキンダンス」による会場と一緒にを行う実演2題。

◎朝からニコリ すてき確認

ふたり一組になって、「今日もいい顔してるね!」「その服きまってるね!」とお互いのいいところを伝え合う。どんなちいさなことでも褒められると気分がよく、お互いのコミュニケーションを促進するのだそうです。会場でも隣又は前後の人と早速実演が始まりました。

普段、あまり人を褒めたことが無い人種の我々が、相手を褒めることの難しさを実感させられました。そして褒めるネタがすぐ無くなってしまおう人が続出する結果となりました。

その中で、植木理事長と山岸副理事長がステージに上がって褒めあう模範演技は傑出しさすが。ご当人の弁は、「ヒトを面と向かってほめることは、けなすことの何倍も難しい。ゴマすりでは、相手や聞いている他人はすぐわかる。」と聞いており、「これは訓練のいい機会」と、「心に思っていたこと」を素直に口に出して云い、結構、頭の体操にもなり楽しかったとのこと。



すてき確認

◎本気ジャンケン

たかがジャンケンとあなどるなかれ。勝ったら本気で喜び、負けたら本気で悔しがる。自然と大きな声が出てテンションアップ！何事も本気でやれば、そこには元気と感動が生まれます。

会場を左右に2分し、それぞれの代表として壇上で「ジャンケン」されたA氏とM氏は奇しくも同じ地域で仕事上のお知り合い。勝ったら何が欲しいかの質問に即座に「現金百万円」（しかし心の中は仕事？が喉まで出かかった）と答え、真剣そのもの。会場も二人のやりとりに本気で一喜一憂。（壇上の二人は、会場もおじさん、爺さんばかりなのに若い人のコンサートのような一体感のある盛り上がりで、よくやっているなどの感想でした。）

結果は、ストレートの2連勝。（日本シリーズみたいに最後まで行けば良かった。）

入札のくじ引きはクジ運なくいつも負け、これからはジャンケンにして欲しい？



●祝賀会

植木理事長の開会挨拶、来賓の田宮土木部長は県議会中のため佐野技監から祝辞をいただいた。

続いて野崎副理事長の乾杯で懇談会の幕開け。普段お目にかかる機会の少ない柳都芸妓さんによる「柳都の踊り」にみな釘付け。踊りに見とれた隣の人たちが席から立ち上がり、携帯で写真撮影。その光景を見てSさんは、「情けない」としみじみ一言。その後、芸妓さんが各テーブルをお酌しに回っていたが、緩みっぱなしの表情の方々が続出し、現役時代の凛々しい姿の欠片もありませんでした。

欲を言えば美しい若い芸妓（振り袖）にも大勢の会員にお酌をしていただけたら更に良かった。

目尻と口元が緩みっぱなしの皆さん、おいしい食事のメニューを覚えていますか？



最後に祝賀会中締め纏に纏わるハプニング。話し上手なN氏の丁寧な中締め挨拶に、講演スケジュールを立て込んでいるNAMARA代表の江口さんがすかさず壇上に上がり、マイクを奪い中締めするという、締めり具合を直す一幕もあり、最後まで会場は笑いの渦。早速講演の成果があがり、皆さん「健康で長寿を保つ秘訣」を免許皆伝したということです。

活動状況報告

(平成24年11月～平成25年10月まで)

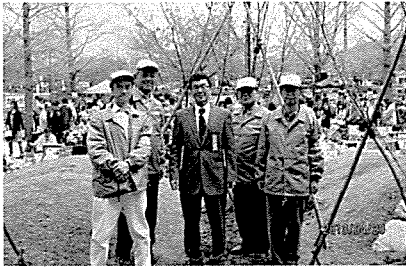
■平成24年

- 11月19日 第32回 理事・監事会議
(技術士センタービル8階)
・平成23年度決算について
・平成24年度予算(案)について
島原理事長以下17名(21名中)
- 12月21日 第33回理事・監事会議
(新潟東映ホテル3階会議室)
・平成24年度総会資料の確認について
・新理事・監事就任承認の確認について
島原理事長以下19名(21名中)
- 第34回理事・監事会議
(新潟東映ホテル3階会議室)
・理事長及び副理事長の互選について
・講演会及び懇談会での理事の役割について
・10周年記念事業について
島原理事長以下21名(21名中)
- 平成24年度通常総会(新潟東映ホテル朱鷺の間)
・平成23年度事業報告及び収支決算の承認について
・平成24年度事業報告及び収支予算(案)について
・役員改選について
正会員293名 内出席者113名、
委任状提出者119名 計232名
- 講演会及び懇親会(新潟東映ホテル朱鷺の間)
第1部
・講師 田宮強志氏
・演題 最近の土木行政について
第2部
・講師 (有)ナマラエンタープライズ
 茨井保之氏・中村弘和氏
・演題 ニイガタ弁法律教室
来賓 24名、正会員108名、賛助会員58名
計190名



■平成25年

- 1月31日 「平成25年度 県土木部広報事業への協力依頼」
について
・事前打ち合わせ
監理課：瀬戸政策企画員、清水理事
- 2月12日 河川情報モニター会議(技術士センタービル8階)
・平成25年河川情報モニターの実施計画について
・平成24年度河川情報モニターの実施に関する
問題等について
河川管理課3名、地区担当者14名、NPO4名
- 2月14日 正副理事長及び各部長会議(榊興和5階会議室)
・「平成25年度 県土木部広報事業への協力依
頼」について
・地域懇談会の開催時に建設業の必要性、施設の
重要性をアピールするために災害復旧現場の見
学会を実施する。または、地域懇談会とは、別
途に新潟地域整備部とタイアップし実施する。
以上2件を清水理事より監理課に報告。
・監理課の意見を聞いたうえで、次回理事・監事
会に取組み方向を報告提案する。
正副理事長及び各部長 計7名

- 3月12日 第35回理事・監事会議
(技術士センタービル8階)
・平成25年度河川モニターの実施計画について
・NPO法人にいがた地域創造センター設立10周
年記念事業について
・「平成25年度 県土木部広報事業への協力依
頼」について
植木理事長以下20名(全21名中)
- 4月29日 第26回新潟県都市緑花フェア
(新潟県スポーツ公園)
植木理事長、清水理事他3名
- 
- 5月29日 都市公園情報モニター会議
・新潟県都市公園情報モニターについて
・平成25年度都市公園モニター担当者7地区14名
- 6月5日 第36回理事・監事会議(技術士センタービル8階)
・NPO法人にいがた地域創造センター設立10周
年記念事業について
・「平成25年度 県土木部広報事業への協力依
頼」について
・新規会員の加入状況について
野崎副理事長以下15名(全21名中)
- 6月21日 NPO法人にいがた地域創造センター10周年記念
事業 講演会及び懇親会 (ホテル日航)
・講師 (有)ナマラエンタープライズ
 第2代新潟県元気大使 江口 渉氏
・演題 「笑いと健康：健康で長生きする秘訣」
・アトラクション：
「建設現場におけるお笑い朝礼実演」
パンキンダンス
来賓44名、正会員121名、賛助会員76名
計241名
- 7月24日 にいがた道の研究会第11回トーク会
(新潟会館)
[支援事業]・山岸副理事長他(会員外含め)47名
- 8月10日 万内川砂防施設登録有形文化財指定10周年記念
式典 (万内川砂防公園)
[支援事業]・妙高市長より、感謝状を贈呈される。
- 8月27日 第37回理事・監事会議 (海彦)
・NPO法人にいがた地域創造センター設立10周
年記念事業の会計報告について
・「平成25年度 県土木部広報事業への協力依
頼」の現状について
- 10月12日 「平成25年度 県土木部広報事業への協力依頼」
の現場研修実施
・対象者：新潟工業高校生徒26名、引率者5名
・新潟地域における地盤沈下の状況を模型を使用
して説明
・乗船し信濃川と通船川の水位差の体験及び橋脚
や桁の腐食状況確認
・高所(ホテル日航展望室)から新潟市東地区に
おける信濃川・通船川及び山ノ下閘門の位置及
び役割を確認
(土木部管理課：柵橋室長以下2名、新潟地域整
備部：鈴木副部長以下3名、植木理事長以下14名)

河川情報モニター実施報告

業 務 部

河川情報モニター活動も8年目となりました。平成25年は、144名（延べ482名）の会員の皆さまのご協力により、県職員が行う通常巡視の補完業務として4～9月で4回程度、131河川の巡視を無事行うことができました。ありがとうございました。

しかし、会員の高齢化・会員数の不足等、地域により大きくバランスを欠いている現状で、今後の活動にも影響が出てきております。会員の皆さまの地域を越えたご協力・ご支援により県民の暮らしの安心安全に寄与していきたいと思っております。今後ともよろしく願いいたします。

■平成25年（4月～9月）河川情報モニター活動状況

地域機関名	地域担当者		巡視河川数	巡視河川延長 (km)	NPO 配置人員	NPO実施回数 延人数
	主任	副 任				
村 上	伊藤 勝夫	米野 紀男	9	12.5	5	12
新 発 田	竹内 隆良	伊藤 闊男	1	14.0	9	36
新 津	武田 光男	伊藤 靖	32	113.1	22	71
津 川	永井 将裕	伊藤 恒彦	4	17.5	3	9
新 湍	中俣 孝	宇留間廣久	5	17.0	12	12
巻	真田 明	—	7	82.7	9	29
三 条	酒井 一夫	—	13	51.3	8	32
長 岡	吉野 利夫	清水 洋一	9	65.4	24	94
与 板	吉野 利夫	清水 洋一	3	23.5		
小 千 谷	吉野 利夫	清水 洋一	10	19.5		
魚 沼	小幡 利永	磯部 剛	2	18.3	3	11
十 日 町	田口 耕平	中町 和男	7	57.0	12	36
南 魚 沼	星野 正昭	中澤 淳一	3	15.1	4	15
柏 崎	赤堀 洋一	関谷 勝広	3	24.6	6	24
上越・上越東	大塚 和雄	塩崎 一美	9	69.9	16	66
糸 魚 川	大塚 和雄	塩崎 一美	3	20.3	4	11
佐 渡	佐々木敏和	小鷹 賢正	11	30.3	7	24
計			131	652.0	144	482

都市公園情報モニター実施報告

業 務 部

県では、平成19年度より都市公園を利用する県民の視点を公園管理（指定管理者への指導等）に取り入れるため、「都市公園情報モニター」を募集しておりました。NPOにいがた地域創造センターとしては、平成22年から試行的に行っており、おおむね年4回モニター報告をしており公園管理に寄与しています。

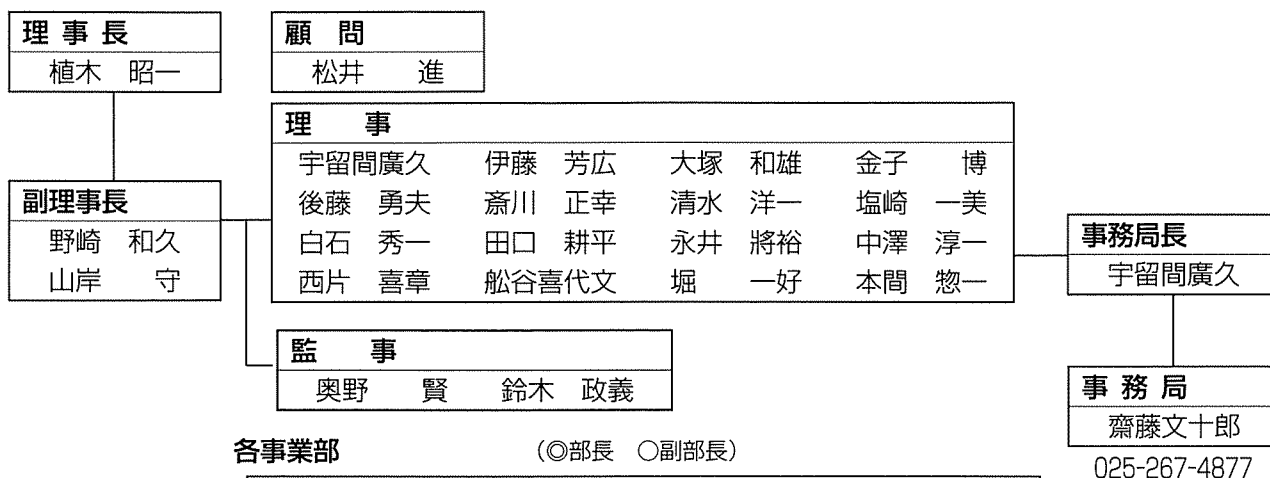
■平成25年 都市公園モニター担当者

公 園 名	担 当 者	
	主任担当者	補助担当者
紫雲寺記念公園	米野 紀男	中澤 敏雄
聖籠緑地・島見緑地	野崎 和久	船谷喜代文
鳥屋野公園女池・鐘木地区	永井 将裕	鈴木 政義
スポーツ公園北地区	西片 喜章	岡部 登
スポーツ公園南地区	奥野 賢	山岸 守
県立植物園	後藤 勇夫	寺尾伸英一
大湍水と森の公園	青木 完	金子 進



当NPO法人の役員及び各事業部員は下記のとおりです。

◆ 組織図 (理事19、監事2)



各事業部 (◎部長 ○副部長)

総務部				
◎宇留間廣久	永井 将裕	中澤 淳一	川瀬 俊一	
○船谷喜代文	吉田 弘	鈴木 久志	小林 守	
企画部				
◎斎川 正幸	後藤 勇夫	田口 耕平		
○白石 秀一	井口 久雄			
業務部				
◎西片 喜章	星野 正昭	徳永 哲夫		
○塩崎 一美	伊藤 勝夫			
広報部				
◎清水 洋一	大塚 和雄	湯田 寛		
○伊藤 芳広	藤田 太子			

会員の動向

〈会員数〉

会員区分	設立総会時 H15.6月	平成18年度 H18.11月	平成19年度 H19.11月	平成20年度 H20.11月	平成21年度 H21.11月	平成22年度 H22.12月	平成23年度 H23.12月	平成24年度 H24.12月	平成25年度 H25.11月
正会員	164	252	275	285	288	295	292	293	296
賛助 会員	個人	-	2	2	1	1	1	1	1
	法人	-	205	182	174	163	152	152	156
計	164	459	459	460	452	448	445	446	453

編集後記

今年度は10周年記念祝賀会や、県から委託された「身近な社会資本の見学会」など新たな大きな事業に役員・事業部一丸となり取り組み、大きな成果をあげました。広報部員一同新規事業実施に精力的に取り組むとともに、本来の広報業務に汗だくで取材にかけずり回り、ようやく発刊にこぎ着けました。第9号はそんな広報部の努力の結晶がきれいに輝きを放っていると自負しているところです。読者の皆様の反応は如何に？(Y.S)



特定非営利活動法人(NPO法人)
にいがた地域創造センター

理事長 植木 昭一

〒950-1101 新潟市西区山田2522-18
(財)新潟県建設技術センター内3階
TEL/FAX (025)267-4877